

今日はイエス様の最後の晩餐を記念する聖木曜日で、イエス様はその晩餐を持って、「信者の皆さんと共にささげるミサ」を制定されました。イエス様は神様の独り子でありながらも、すべての人の罪を赦すための小羊として神様から遣わされ、神様の慈しみと愛による救いを御言葉と御業を通して宣べ伝えられました。しかし、イエス様の務めは恵み豊かなお話を聞かせることや素晴らしい徴とか奇跡をおこなうことだけではなく、それを証しすることまで繋がらねばなりません。その証しとは十字架の死を受け止めることで、イエス様はその死をもって人間に向かう神様の愛と慈しみを証明されたのです。そして、その証の務めがご自分の死で終わることのないように、今日、最後の晩餐で弟子たちにその務めを任せ、更に、同じ務めがミサの形で教会に任せられたわけです。

その最後の晩餐の様子について、ヨハネの福音は最も詳しいことまで語っています。その場で、イエス様は長い教えを聞かせ、また、意味深い祈りを神様にささげられました。その教えを纏めたら、神様とイエス様ご自身の一致の神秘やその一致に弟子たちも与ることについてのことですが、イエス様は愛によってそれができるとおっしゃいました。つまり、御父とイエス様が愛によって一致しておられるように、弟子たちも同じ愛によって神様の一致の神秘に与れるということです。その教えに続いて、イエス様は弟子たちに新しい掟を与えられましたが、それが「互いに愛し合うこと」なのです。イエス様はその掟を守ることによって、彼らのご自分の人であることが証しされ、また、ご自分と一つとなるとはつきりおっしゃいました。それからイエス様は御父に、ご自身と御父との一致に弟子たちも与ることができるよう、また、その一致を守ってくださるよう、心を込めて祈られました。確かに、弟子たちも、私たちも、愛だけによってイエス様と一致され、更に、神様と一つとなれるし、愛によってその関係を守ることになるのです。そして、その愛の務めを果たすことによって、イエス様が任せてくださった愛による神様の救いを多くの人々に伝え、

また、証^{あか}しすることができるのです。

さて、今日^{きょう}の典^{てん}礼^{れい}の中^{なか}では「洗^{せん}足^{そく}式^{しき}」という特^{とく}別^{べつ}な儀^ぎ式^{しき}が行^{おこな}われます。それは最^{さい}後^ごの晩^{ばん}餐^{さん}の時^{とき}、イエス様^{さま}が弟^で子^したちになさったことを再^{さい}現^{げん}することで、司^し式^{しき}する司^し祭^{さい}が何^{なん}人^{にん}かの信^{しん}者^{じゃ}さんたちの足^{あし}を洗^{あら}うことです。イエス様^{さま}は弟^で子^したちの中^{なか}、誰^{だれ}一^{ひとり}人^{ひとり}はばか^{ばか}ることなく、皆^{みな}の足^{あし}を洗^{あら}ってくださいました。しかも、ご自^じ分^{ぶん}を裏^{うら}切^ぎるイスカ^{いす}リオ^{りお}テのユ^{あし}ダの足^{あし}まででした。それはまさしく僕^{しもべ}の姿^{すがた}で、イエス様^{さま}は自^みら^{みづか}をへりくだ^{くだ}ってご自^じ分^{ぶん}の弟^で子^したち^{たち}の僕^{しもべ}となられたのです。そして一^{ひとり}人^{ひとり}一^{ひとり}人^{ひとり}の足^{あし}を洗^{あら}い、つい^{つい}に、ペ^{あし}ト^{あし}口^{くち}の足^{あし}を洗^{あら}おうとされたが、ペ^{あし}ト^{あし}口^{くち}はそれ^{それ}を断^{ことわ}りました。そこでイエス様^{さま}は「もしわたしがあなたを洗^{あら}わないなら、あなた^{なん}はわたしと何^{なん}のかかわりもないことになる。」とおっしゃいました。というのは、足^{あし}を洗^{あら}うことによ^よってイエス様^{さま}とのかかわりが守^{まも}られるということでしょう。イエス様^{さま}のその言^{こと}葉^はは私^{わたし}たちにもあ^あたり^{たり}ます。主^{しゅ}であり、真^{しん}の先^{せん}生^{せい}であるイエス様^{さま}がそういった模^も範^{はん}を見^みせたのは、私^{わたし}たちもそのよ^ようにしな^しなければなら^らないことを教^{おし}えるためのこと^{こと}です。しかも、最^{さい}初^{しょ}のミ^あサである最^{さい}後^ごの晩^{ばん}餐^{さん}でそう^{そう}な^なさ^さったのは、ミ^あサにふ^ふさわ^{さわ}しい姿^{しせい}勢^じとは互^{たが}いに僕^{しもべ}となることであるのを示^{しめ}すためのことだと思^{おも}います。互^{たが}いに愛^{あい}し合^あうこととは互^{たが}いに僕^{しもべ}となること^{こと}から始^{はじ}まること^{こと}かもしれ^しませ^せん。互^{たが}いに足^{あし}を洗^{あら}い合^あうこと、つまり、互^{たが}いに赦^{ゆる}し合^あい、理^り解^{かい}し合^あい、支^さえ合^あうことによ^よって、互^{たが}いのかかわり^{かかわり}は守^{まも}られるのです。そう^{そう}しな^しないと、私^{わたし}たちとイエス様^{さま}、また、私^{わたし}たち同^{どう}士^しの間^{あいだ}には何^{なん}と^とい^いうかかわりもないこと^{こと}になるはず^{はず}です。イエス様^{さま}の愛^{あい}に満^みちた最^{さい}後^ごの晩^{ばん}餐^{さん}を記^き念^{ねん}する聖^{せい}木^{もく}曜^{よう}日^びのこ^ころ^とを心^{こころ}に留^とめつ^つつ、これ^{これ}から^{から}の私^{わたし}たち^{たち}の愛^{あい}の歩^{あゆ}み^みがイエス様^{さま}の御^{おん}体^{からだ}と御^{おん}血^ちによ^よって力^{ちから}付^づけられるよ^よう、お祈^{いの}りいた^{いた}します。